

相撲界の横綱の「白鵬関」がNHKスペシャルで自らの相撲に対する姿勢を述べていました。それは、今場所において双葉山の持つ69連勝に挑戦した際の気構えと、達成できなかった後の心情を述べたものでした。この白鵬の話を知っていると、野球の「イチロー選手」の話を知っているかのような、同じ概念論で語られていました。イチローは野球哲学を語り、白鵬は相撲哲学を語っていますが、実は、剣の道の達人である宮本武蔵もその「五輪の書」において、剣の哲学を語っています。それぞれの哲学は決して技術的な話ではなく、「野球とは何ぞや!!」「相撲とは何ぞや!!」「剣の道とは何ぞや!!」という、その根源的メカニズムと自らの心構えや精神強化について、熱を込めて真剣に語っています。白鵬が属する相撲界の大先輩に、69連勝の記録を持つ「双葉山」がいます。双葉山は、近代相撲界で最強の力士と呼ばれ、彼もまた相撲哲学の論者でした。

スポーツ界の格言に、「心」「技」「体」があります。体は“からだ”であり肉体を、技は“わざ”であり技術を、心は“きもち”であり精神を表します。この「心・技・体」が一体化すると、「道」という超越したレベルに達します。

近代相撲界の最強の力士であった双葉山は、「相撲道」を切り開いた人でもありました。片目が見えないというハンディがありながら69連勝し、優勝回数も当時としては格段の回数でした。双葉山は常に相撲道を説き、身体（パワー）と技（技術）だけでなく、人としての品格的にも秀で、相撲とは何ぞやを徹底的に追求する「奥の深い哲学的精神」を持っていました。それゆえに、白鵬は双葉山の技をフィルム映画（当時はビデオがなかった時代）で何十回も見て、現在の競争相手（リアルな相手）ではなく、69連勝した双葉山（バーチャルな相手）の技を学びに学び、「後先」（後から立って先に攻める究極の技）をマスターしようとしていました。同時に、双葉山の生き様や相撲に対する執念と愛着心、また、横綱としての品格とあり方も学ぼうとしていました。相撲は勝てばよいのではなく、最高の立場の人（横綱）の人生道を学んでいたのです。

剣道には剣の道、野球には野球道、相撲には相撲道があり、肉体を超え、技術を超え、精神の領域にたどり着く「道」まで達した人を「達人」と呼びます。宮本武蔵しかり、イチローしかり、双葉山しかり、そして白鵬も達人の道を真に進んでいます。

宇宙を含む自然界は、「偉大なる神」がこの世をプログラムしていると仮定すれば、あらゆる出来事は「1つの原理原則」によって起こっていることとなります。相撲、野球、剣道…等、その技術は見た目は全く異なるものですが、本質あるいは根源は同じシステムで動いています。この本質や根源こそが、目に見えない“何か”であり、それを「心」あるいは「精神」と呼びます。体に技が加わり、さらに心（精神）が加わると、いわゆる「道」となります。この道にまで達した達人は、実は、宇宙及び自然界全体の成立（あるいは成功）のメカニズムを見抜いた人なのかもしれません。

単なる身体（パワー）は動力機械でもできます。単なる技（技術）は、AIロボットやITロボットでできます。しかし、心（精神）は人間にしかできず、コンピューターの何兆倍もの能力を持っています。この“心”のレベルまで達すると、コンピューターは「知能指数の高い箱」あるいは「安物の文房具」となります。

アインシュタインの相対性理論による宇宙の仕組みは、誰も行ったことのない宇宙の果てまで解明しています。これも、地球上で得られるわずかな宇宙情報で、宇宙を含む自然界・人間界全体のプログラムを解明しているからできたのかもしれませんが。

いずれにしても、世の中には解明できないことが一杯あります。我々の流通業界においても、本当は不思議な成功も不思議な失敗もないのです。我々が、知らないだけです（六車流：流通理論）。

(株)ダイナミックマーケティング社⁺
代 表 六 車 秀 之